

松梅校道徳通信

令和7年7月11日

文責：野田

今年度最初の研究授業がありました

今年度も松梅校では、特別の教科「道徳」について研究します。「考え、議論する」道徳科の授業づくりを追求することで、児童生徒が、授業で学習することについて、自分事として進んで考え、対話を通して、その考えを深めようとする児童生徒の育成を目標とします。6月25日（水）に、今年度、最初の研究授業がありました。「生命の尊さ」をテーマに、小学3年生、中学1年生、中学2年生の授業がありましたので、報告します。

小学3年生「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」

「ヌチヌグスージ」とは、沖縄で行われている命の祭りのことで、家族や親戚が集まり、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えるものです。主人公は、島のおばあさんから、命は、ご先祖様から続いてきていることを聞きます。主人公の気持ちを考えることで、命の不思議さや生命を大切にすることについて考えました。

児童の意見

- ・生まれてくる時お母さんがとても心配していた。
- ・お墓参りをしている。



中学1年生「エルマおばあさんからの最後の贈り物」

多発性骨髄腫により余命1年と告げられたエルマおばあさんが死に至る過程を克明に記録した本教材と向き合うことによって、「尊厳ある生と死」について、そしてエルマおばあさんが残した「最後の贈り物」とは、何だったのかについて考えました。

生徒の意見

- ・最後は快適に過ごさせたい。
- ・手紙を書きたい。
- ・感謝の気持ちを伝える。

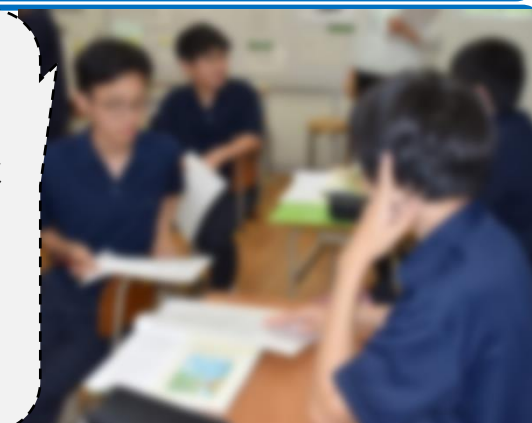


中学2年生「奇跡の一週間」

ホスピスで働く「私」と残された生命を全うしようとする末期がん患者「北村さん」の生き方に関する内容です。死を目にした北村さんの生き方を通して、限りある命を輝かせるためには、これからどのように生きることが必要か、考えました。

生徒の意見

- ・今生きていることをかみしめて本気を尽くせる大人になりたい。
- ・失敗しても少しずつ立ち直り、諦めない大人になりたい。



次回の研究授業は7月16日（水）。「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」をテーマに、中学1年生、中学2年生で授業が行われます。